

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 0606

科目概要記入欄

1. 開設大学名	県立広島大学		開催方法	<input type="checkbox"/> 対面 () <input checked="" type="checkbox"/> オンライン (録画) <input type="checkbox"/> 対面 ()・録画	
2. 科目名	正式科目名	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅲ		クラス名	
	副題	《摂食嚥下リハビリテーション》		配当年次	3年
	旧科目名	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅲ 《摂食嚥下障害とそのリハビリテーション》		受入学年	2~4年
	学問分野	番号	34	名称	保健（医学、歯学、薬学、看護など）
サテライトで開講される科目の科目群					
3. 担当教員名	矢守 麻奈				
4. 単位数	2単位		5. 開講学期	前期集中	
6. 開講期間 曜日・時間	通常は木曜3・4限 オンライン（録画）のため前期集中				
個別開講日	1回目 /	2回目 /	3回目 /	4回目 /	予備日 /
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」（リハビリテーション, 栄養, 介護, 言語聴覚障害等に関する初歩的知識）				
8. 募集人数 (総授業定員)	50人 (50人)		9. 定員超過時の 選考方法	医療・保健・福祉・健康科学（食物栄養学）系職員・学生を優先	

<p>10. 科目内容・授業計画</p>	<p><科目内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下に関する器官の解剖・生理，性差，年齢変化について理解する。 2. 摂食嚥下障害の原因疾患，病態，影響について多面的に理解する。 3. 摂食嚥下障害に影響する高次脳（認知）機能障害について理解する。 4. 種々の摂食嚥下機能検査について，それぞれの特性，適応，技法，解析方法を修得する。 5. 種々の基礎的嚥下訓練（間接訓練）・摂食訓練（直接訓練）法についてそれぞれの適応，技法，リスクを修得する。 6. 加齢，治療・服薬内容，高次脳機能障害，気管切開・人工呼吸器管理，口腔衛生，味覚・嗜好変化，栄養管理，誤嚥・窒息時の対応等，訓練実施時の留意点について理解・修得する。 7. 摂食嚥下リハビリテーションにおける職種間連携，施設間連携について理解する。 <p><授業計画></p> <p>下記は目安。受講者の志望職種等により時間配分・順序等変更の可能性あり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下器官の解剖・生理：先行（認知）期・口腔準備（咀嚼）期・口腔期・咽頭期・食道期に関する器官と神経機構 2. 摂食嚥下機能の年齢的変化、性差（小児、成人～高齢者） 3. 摂食嚥下障害の発症機序：原因疾患，薬剤・呼吸機能・高次脳機能・姿勢保持機能，栄養状態の影響（誤飲，窒息，誤嚥（性肺炎），低栄養，褥瘡等） 4. コメディカル（言語聴覚士等）が行う検査と評価：情報収集，理学的所見，口腔咽頭器官機能検査，呼吸機能・音声構音機能，冷触刺激，RSST 等 5. 医師と行う検査と評価：内視鏡，造影等各種検査の特長と限界 6. 内視鏡・造影画像の解析，病態診断，誤嚥のタイプ分類 7. 内視鏡・造影画像の解析：演習 8. 基礎的嚥下訓練（間接訓練）：適応とリスク，演習 9. 摂食訓練（直接訓練）：代償嚥下，代償姿勢，食物形態，一口量・経口摂取回数の調整 10. 摂食訓練（直接訓練）：演習 11. 訓練上の留意点：栄養管理，代替栄養法，口腔ケアについて 12. 摂食嚥下障害に対する医科歯科的治療：薬物治療，外科治療，補綴物等 13. 予後予測，患者・介護者に対するカウンセリング，介護者指導，職種間・施設間連携 等 14. 悪性腫瘍術後（頭頸部腫瘍）の摂食嚥下リハビリテーション 15. 進行性疾患における摂食嚥下リハビリテーション 		
<p>11. 試験・評価方法</p>	<p>授業への参加状況，レポート等を総合的に評価し，判定する。</p>		
<p>12. 別途負担費用</p>	<p>特になし</p>		
<p>13. その他特記事項</p>			
<p>14. サテライト科目の 社会人受講について</p>	<p>科目等履修生（単位付与）として受け入れ</p>	<p>可</p>	<p>否</p>
	<p>聴講生（単位認定不要）として受け入れ</p>	<p>可</p>	<p>否</p>